

# チームワーク向上への取り組みについて

○植田 菜緒<sup>1)</sup>、三宅 宣雅<sup>1)</sup>、宇都宮 慎一<sup>1)</sup>、白石 仁志<sup>1)</sup>、岡本 隆<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>愛媛県立中央病院

## 【背景】

当院放射線部では係ごとに年間目標を立てている。今年度、一般撮影係は「チームワーク向上」を目標に掲げ、一般撮影業務をテーマにロールプレイを実施したので、その活動について報告する。

## 【目的】

ロールプレイを行うメリットとして、患者の気持ちや感覚を理解できる点、技師同士のノウハウを共有できる点、チームの関係性を強化できる点が挙げられる。これらを活用し、メンバーの技術と職場の雰囲気を上向きにすることを目的とした。

検討内容は、一般撮影業務を正確かつ効率的に行うために重要な、撮影法、撮影手順、患者対応とした。

## 【方法】

役割は、シナリオ作成を行う担当者、患者役、技師役、オブザーバーとし、あらかじめ決めておく。日時は毎月第4木曜日の16時30分からとした。

方法として、初めに患者情報や依頼内容、電子カルテに書いてあるような詳細な情報を共有する。その後、患者役と技師役が決められたシチュエーションで実践する。ロールプレイ実施後、フィードバックを行う。終了後、担当者がフィードバックシートを作成し、閲覧板で共有する。



図1.ロールプレイの実施風景

テーマの選定は担当者が行うが、実際に困った症例を選択しており、全盲患者や高度円背患者、救急患者等を題材とした。

## 【過去の例】

高度円背	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 枕の高さは体位ごとに変える</li><li>・ 緩衝材の使用を検討する</li></ul>
側臥位不可	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者入室前に撮影室の検討をする</li><li>・ 撮影体位の変更や補助員の使用を検討する</li></ul>
対応注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>肢体不自由者に対して背もたれのない椅子は使用すべきではない</u></li><li>・ 「つま先を外に回す」などの説明がわかりやすい</li></ul>
流血	<ul style="list-style-type: none"><li>・ VG設定にする</li><li>・ ストレッチャーの柵ができない場合は隣についておく</li></ul>

図2.過去の活動でのディスカッション内容の抜粋

この中で、足が不自由という設定でロールプレイを行った際、これまで座位での撮影時に使用していた椅子は危険なのではないかという意見が出た。その後、撮影に使用する椅子は背もたれのあるものに変更された。

本来、技師の技術向上を目的に始めた当活動が、医療安全の観点でも役立つ結果となった。



図3.ディスカッション風景

## 【まとめ】

ノウハウを共有することで技師としての技術や患者対応の幅を広げることができ、技師同士の意思疎通も行いやすくなった。また、定期的を開催することで、日ごろから患者負担の少ない方法を模索し、意識するようになった。さらに、医療安全の観点から、これまでの患者対応における改善点が発見された。

## 【今後の取り組み】

今回の取り組みで得た意見や改善案は部内でのアイデアであるため、今後は他職種や専門家に意見を求め、サービスの質を向上させていきたい。